

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



ひな祭りが過ぎ、日差しが柔らかくなってきましたね。
春は本来、葉を落としていた木々が芽吹いて命を吹き返し、生命力のみなぎる時です。

冬籠りをしていた生き物たちも、暗い土の中から顔をのぞかせるような季節になりました。

私たちも、重いコートを脱いで、ちょっとお出掛け・・・なんて、楽しいことが始まる期待感にころがるときめきます。



素敵な出会いが沢山ありますように！



各学校や職場では、卒業・転勤、そして期末を控え何かとお忙しいことと思いますが、どうぞお元気でお過ごしてください。桜の開花ももう間近です！

失敗事例から学ぶ家づくり成功の秘けつ！ (6)

新たなテーマとして、家づくりの際に注意すべき大切なポイントを書かせていただいています。ご参考になれば幸いです。

【申込金が戻らない・・・】

契約を取り止めたのにもかかわらず、申込金〇〇万円が戻ってこない・・・

こういった、「申込金」をめぐるトラブルも後を絶ちませんが、それは何故でしょう？

間取りの相談や資金計画、キャンペーンの申し込み等をさせるために申込金を受け取る住宅会社があります。

こういった会社では、仮にその住宅会社で建築工事をしない場合でも申込金を返戻しないことが多いのです。

申込金が戻るのか・戻らないのか？をきちんと確認しないまま支払ってしまうと、こういったトラブルが生じます。



また、実際は契約するつもりで支払っても、その後、話し合いをしていくうちに、信用できない会社？と感じて、契約を取り止めることもあります。こういったケースでも申込金が戻ってこないこともあるのです。

いずれにしろ、納得していない段階で申込金を支払ってしまうと、後々トラブルになることがあります。

「話が違う」

「契約を取り止めたのだから、支払った申込金は、当然ながら返してほしい」・・・等など

いろいろな事例がありますが、基本的に「申込金は戻ってこない」と考えて、全て納得した上で申し込みをするようにしましょう。



大切な住まいづくり、そして大切な住宅資金です。

無駄な費用を支払わないですむように、判らないことは何度でも聞いて、本当に納得した段階で申込金を支払うようにしてください。

後悔する前に確認することがとても大事ですね。

次回に続く

「桜えび」

桜の咲く時期に旬を迎える桜えび。

桜えびの体長は 4～5cm ほどのかわいらしさ。

生きている時は、紅い色素が透けて桜色に見えます。

国内では、駿河湾（静岡県）の特産物になっています。

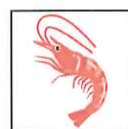
というのも、桜えびは、東京湾や相模湾にも生息していますが、漁業許可が下りているのは静岡県だけなのです。

桜えび漁は、春（3月下旬～6月上旬）と、秋（10月下旬～12月上旬）の年2回行われ、夏（7月～8月）は桜えびの産卵のピークになるので、資源保護のため休漁となります。

素干しのものは通年出回っていますが、生や釜揚げの桜えびは旬の時期ならではのおいしさです。

釜揚げなどは比較的手に入りやすいので、是非味わいたいものですね。

かき揚げや炒飯、パスタなどに利用して、おいしい春を楽しみましょう！



仲間外れにされたけど…



ごく平凡な家族なのですが、10歳のお兄ちゃんには重度の食物アレルギーがあり、食べ物も自由に口にできないという事情がありました。そんなある日、8歳の弟が学校でいじめられて帰ってきました。

母親が驚いてその理由を聞くと、弟は言いました。「僕だけファミレスに行ったことがないから仲間外れにされた・・・」

実は、お兄ちゃんのアレルギーのせいで、弟はファミレスどころか外食もしたことがないという状況でした。それを聞いてショックを受けた母親は、父親と相談して彼を一度ファミレスに連れていくことに決めました。

そしてある日、家族4人でファミレスに行き、案内された席に着きました。

すぐに店員が注文を取りにきました。母親は店員に、「日替わりランチ2つとお子様ランチを1つ下さい」と頼みました。

すると店員は、「お子様ランチ1つですか？」と尋ねました。母親は「はい、1つお願いします。実は、下の子がファミレスに行ったことがないと学校でからかわれてしまって・・・。一度くらい連れてきてあげてもいいんじゃないかと思い連れてきたのです。と言うのも、上の子が食物アレルギーで食べ物が制限されているのです。それでも子供たちにはできるだけ不自由な思いはさせたくないと思って連れてきました」

「更に失礼なお願いなのですが、上の子には家から持ってきたコレをここで食べさせても構わないでしょうか？」と、母親は紙袋から料理の入ったタッパーを遠慮がちに取り出しました。

当然ながら、ファミレスに食べ物を持ち込むことは、衛生管理などの問題により本当はダメだ

ということを母親は承知していました。

ここで断られたらどうしようかと母親は密かに心配していたのです。

すると店員は、「そうですか・・・」と言った後、「私にそのタッパーを渡して下さい」母親は、「えっ？」と思い、やっぱりダメか・・・と落胆しながら店員にタッパーを渡しました。

しばらくして、両親が頼んだ日替わりランチと小さな旗が立っている弟のお子様ランチが運ばれてきました。弟は大喜びですが両親は素直に喜ばませんでした。

が、次の瞬間、もうひとつのお皿が運ばれてきたのです。お皿に並んでいるのは紛れもなくあのタッパーの中の料理でした。きれいに盛り付けられ、真ん中には小さな旗まで立っています。

「はい、これがお兄ちゃんのお子様ランチだよ」



その店員の思いがけない言葉と、嬉しそうに笑っている兄弟の姿を見て、両親は涙が止まりません。最高に幸せなランチタイムでした。

店員さんの機転が家族皆を幸せにしてくれた心温まるお話、如何でしたでしょうか？

「編集後記」

3月になると思い起こされるのが、あの東日本大震災です。私たちの想像の範囲をはるかに超える、甚大な被害をもたらしたあの日から8年が過ぎました。

被災された方にとっては、その間1日もこころの休まる時がなかったことを思うと胸が痛みます。

心身ともに傷ついた方たちに、どうしたら寄り添うことができるのか、そして大切な命を守るにはどうすべきかを、もう一度みんなで考えてみましょう。

あの日の哀しみ・怖ろしさを忘れないためにも・・・被災地の皆さんが、きれいに咲く桜の花に一瞬でも癒されることをこころから願います。どうぞお元気で！



今月号もお読みいただき有難うございます。

「やすらぎ通信」はメールでもご覧いただけます。

編集責任者 渡辺 田鶴子